

# 特集1

## 「環境政策手法とエネルギー政策」 セッション

○諸富 諸富でございます。

このセッションは、エネルギー・気候変動政策を取り扱うセッションということになっておりまして、「環境政策手法とエネルギー政策」のセッションであります。

プログラムの中に書いてありますように、獨協大学の浜本先生、名古屋大学の高村先生、帝京大学の寺西先生に、それぞれご報告いただき、ディスカッションをしていければと思います。

植田先生はもちろん初期のころ、今日の最初のセッションでも言及のありました、社会金属学とかたちで学問をお築きになり、そして、廃棄物とリサイクルの経済学、その解決手法としての環境税や排出量取引を含めた環境政策手法の分析に進まれて、さらに気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3)の場で「京都議定書」が締結され、気候変動問題にも非常に関心を持たれて、深い分析を進められていくことになったわけです。

このような経緯で温暖化問題の分析を進められていく中で、やはり当然のことながらエネルギーというものを、非常に大きな関心領域として取り扱われることになっていくわけです。

植田先生が、特にエネルギー問題に非常に深く立ち入られることになったのは、やはり2011年の東日本大震災。それから、それに伴って起きた福島第一原発事故であったことは、もう言うまでもありません。

当時、復興関係のいろいろな会議が立ち上がりましたけれども、これらに熱意をもって参加され、そして、何よりも再生可能エネルギー固定価格買取制度が導入されてことに伴って、その固定価格を決定する委員会（「調達価格等算定委員会」）の委員長に就任をされます。

これを契機に植田先生は、非常に精力的に再生可能エネルギー政策に関わっ

ていくことになりましたし、テレビも含め、数々のメディアに出られて発言をされていったお姿を、われわれは目にしたわけです。

この辺りを、植田先生が直近まで本当に力を注いでこられた一番重要な領域の一つであるエネルギー問題を含めて、このセッションでは取り扱っていきたいというように考えております。

最初に、3人のそれぞれの先生方から順番にプレゼンをしていただいて、それから後に、メンバー同士でディスカッションをしていきたいと考えております。

そうしましたら、最初に浜本先生からお話をいただけますでしょうか。よろしくお願い致します。

諸富 徹（京都大学）